

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 0 月 2 8 日
Date of Application:

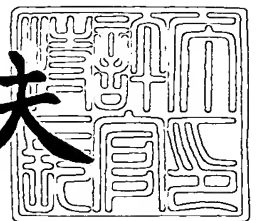
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 1 2 4 7 0
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 3 1 2 4 7 0]

出 願 人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 8 月 1 4 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



Atty. Docket No. ITECP003

出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 6 6 3 0 3

【書類名】 特許願

【整理番号】 PNSEA141

【提出日】 平成14年10月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 大島 康弘

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 鈴木 純二

【特許出願人】

 【識別番号】 000002369

 【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 110000017

 【氏名又は名称】 特許業務法人アイテック国際特許事務所

 【代表者】 伊神 広行

 【電話番号】 052-218-3226

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 129482

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 0105216

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 中古品見積システム、その方法及びそのプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システムであって、

前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータ自身の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報を該ユーザコンピュータに自動的に読み出させ該ユーザコンピュータから前記見積必要情報を取得する見積必要情報取得手段と、

前記見積必要情報に基づいて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定する見積価格決定手段と、

前記見積価格決定手段によって決定された前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータへ送信する見積情報送信手段と

を備えた中古品見積システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の中古品見積システムであって、

前記見積必要情報取得手段は、前記見積必要情報として前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を取得する

中古品見積システム。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の中古品見積システムであって、

前記見積必要情報取得手段は、前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータ自身の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータに前記見積必要情報を読み出させるプログラムを該ユーザコンピュータへ送信し、その後該ユーザコンピュータから前記見積必要情報を取得する

中古品見積システム。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の中古品見積システムであって、

前記プログラムは、前記見積必要情報としての前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を記録したファイル又は前記ユーザコンピュータの構成部品を制御するプログラムを利用して前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を読み出させる

中古品見積システム。

【請求項 5】 請求項 3 又は 4 に記載の中古品見積システムであって、
前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報には、少なくとも CPU の種類、メモリの容量及びハードディスクの容量が含まれる

中古品見積システム。

【請求項 6】 請求項 3 ～ 5 のいずれかに記載の中古品見積システムであって、

前記ユーザコンピュータの構成部品ごとに部品価格を対応付けて記憶する部品価格記憶手段を備え、

前記見積価格決定手段は、前記見積必要情報取得手段によって取得された前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報に基づいて前記部品価格記憶手段から各構成部品の部品価格を読み出し該部品価格の総額に応じて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定する

中古品見積システム。

【請求項 7】 請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の中古品見積システムであって、

前記見積価格決定手段は、前記見積必要情報取得手段によって取得された前記見積必要情報に基づいて、前記ユーザコンピュータの引取が商品の購入を伴う下取の場合の下取見積価格と前記ユーザコンピュータの引取が商品の購入を伴わない買取の場合の買取見積価格とを決定する

中古品見積システム。

【請求項 8】 ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積方法であって、

(a) サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータを引き取る際の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報を該ユーザコンピュータから取得するステップと、

(b) 前記サーバコンピュータが、前記見積必要情報に基づいて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定するステップと、

(c) 前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータへ送信するステッ

プと

を含む中古品見積方法。

【請求項 9】 請求項 8 に記載の中古品見積方法をサーバコンピュータに実行させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システム、その方法及びそのプログラムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

最近、ユーザから中古品を下取る際の見積価格をユーザに提示するシステムが提案されている。例えば、非特許文献 1 には、新たに製品を購入するユーザを対象としたコンピュータ下取サービスが開示されており、ここでは、ユーザが情報入力画面にて中古コンピュータの CPU、メモリ、HDD などの仕様に関する情報を入力したあと見積結果を要求すると、サーバ側からその中古コンピュータの下取見積金額が提示される。

【 0 0 0 3 】

【非特許文献 1】

“デル PC 買取りサービス”、[online]、デルコンピュータ株式会社、[平成 14 年 9 月 1 日検索]、インターネット<URL:http://www.dell.com/jp/jp/dhs/topics/nnsegtopic_kaitori.htm>

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、コンピュータ知識を持っていないユーザにとって、中古コンピュータの CPU、メモリ、HDD などの仕様に関する情報を入力することは困難なことがあった。

【 0 0 0 5 】

本発明は、このような課題に鑑みなされたものであり、コンピュータ知識を有

さないユーザであっても簡単に中古品の見積価格を知ることができる中古品見積システム、その方法及びそのプログラムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段及びその作用・効果】

上述の目的を達成するため、本発明は以下の手段を採用した。

【 0 0 0 7 】

本発明の第 1 は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システムであって、

前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータ自身の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報を該ユーザコンピュータに自動的に読み出させ該ユーザコンピュータから前記見積必要情報を取得する見積必要情報取得手段と、

前記見積必要情報に基づいて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定する見積価格決定手段と、

前記見積価格決定手段によって決定された前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータへ送信する見積情報送信手段と

を備えたものである。

【 0 0 0 8 】

この中古品見積システムでは、ユーザコンピュータからそのユーザコンピュータ自身の見積価格の要求があったとき、そのユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報をそのユーザコンピュータに自動的に読み出させたあとそのユーザコンピュータから取得し、次いで、取得した見積必要情報に基づいてそのユーザコンピュータの見積価格を決定し、その見積価格を含む見積情報をそのユーザコンピュータへ送信する。つまり、この中古品見積システムでは、ユーザコンピュータに自動的に読み出させた見積必要情報に基づいて見積価格を決定する。したがって、ユーザは見積必要情報に関する知識つまりコンピュータ知識を有していなくても簡単に見積価格を知ることができる。

【 0 0 0 9 】

本明細書で、「中古品の引取」とは、ユーザが新たに商品を購入するときにシ

システム側が中古品を引き取る下取と、ユーザが新たに商品を購入しないときにシステム側が中古品を引き取る買取の両方を含む意である。

【 0 0 1 0 】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記見積必要情報取得手段は、前記見積必要情報として前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を取得してもよい。こうすれば、コンピュータ全体では引取価値のない場合であっても構成部品に引取価値があればそれなりの見積価格となるため、ユーザにとってメリットがある。

【 0 0 1 1 】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記見積必要情報取得手段は、前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータ自身の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータに前記見積必要情報を読み出させるプログラムを該ユーザコンピュータへ送信し、その後該ユーザコンピュータから前記見積必要情報を取得してもよい。こうすれば、ユーザコンピュータはシステム側から送信されてきたプログラムを実行すれば見積必要情報を読み出すことができるため、ユーザがユーザコンピュータを操作する負担は軽くて済む。なお、このようなプログラムとしては、例えば J A V A アプレット（J A V A はサンマイクロシステムズ社の登録商標、以下同じ）や A c t i v e X（マイクロソフト社の登録商標、以下同じ）を利用したものが挙げられる。

【 0 0 1 2 】

このとき、前記プログラムは、前記見積必要情報としての前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を記録したファイル又は前記ユーザコンピュータの構成部品を制御するプログラムを利用して前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報を読み出させてもよい。こうすれば、ユーザコンピュータは容易に自分自身の構成部品に関する情報を読み出すことができる。なお、このようなファイルとしては、例えば、W i n d o w s（マイクロソフト社の登録商標、以下同じ）9 5 以上のオペレーティングシステムにおけるレジストリ（コンピュータに関する設定情報を集中管理するデータベース）が挙げられ、また、このようなプログラムとしては、例えばベーシック・インプット・アウトプット・システム（

BIOS、コンピュータに接続されているデバイスを制御するプログラム) が挙げられる。

【0013】

また、前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報には、少なくともCPUの種類、メモリの容量及びハードディスクの容量が含まれていることが好ましい。CPUの種類、メモリの容量及びハードディスクの容量は見積価格に比較的大きな影響を与えるからである。

【0014】

本発明の中古品見積システムは、前記ユーザコンピュータの構成部品ごとに部品価格を対応付けて記憶する部品価格記憶手段を備え、前記見積価格決定手段は、前記見積必要情報取得手段によって取得された前記ユーザコンピュータの構成部品に関する情報に基づいて前記部品価格記憶手段から各構成部品の部品価格を読み出し該部品価格の総額に応じて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定してもよい。こうすれば、引取対象であるユーザコンピュータの構成部品に応じた適切な見積価格が得られる。

【0015】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記見積価格決定手段は、前記見積必要情報取得手段によって取得された前記見積必要情報に基づいて、前記ユーザコンピュータの引取が商品の購入を伴う下取の場合の下取見積価格と前記ユーザコンピュータの引取が商品の購入を伴わない買取の場合の買取見積価格とを決定してもよい。こうすれば、ユーザは下取見積価格と買取見積価格とを比較することができ、自分のコンピュータを引き取ってもらうときに下取に出すべきか買取に出すべきかの指標とすることができる。

【0016】

本発明の第2は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積方法であって、

(a) サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから該ユーザコンピュータを引き取る際の見積価格の要求を受信したとき、該ユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報を該ユーザコンピュータから取得するステップと、

(b) 前記サーバコンピュータが、前記見積必要情報に基づいて前記ユーザコンピュータの見積価格を決定するステップと、

(c) 前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータへ送信するステップと

を含むものである。

【0 0 1 7】

この中古品見積方法では、ユーザコンピュータからそのユーザコンピュータ自身の見積価格の要求があったとき、そのユーザコンピュータの見積に必要な見積必要情報をそのユーザコンピュータに自動的に読み出させたあとそのユーザコンピュータから取得し、次いで、取得した見積必要情報に基づいてそのユーザコンピュータの見積価格を決定し、その見積価格を含む見積情報をそのユーザコンピュータへ送信する。つまり、この中古品見積方法では、ユーザコンピュータに自動的に読み出させた見積必要情報に基づいて見積価格を決定する。したがって、ユーザは見積必要情報に関する知識つまりコンピュータ知識を有していなくても簡単に見積価格を知ることができる。

【0 0 1 8】

本発明の第3は、上述した中古品見積方法の各ステップをサーバコンピュータに実行させるためのプログラムである。このプログラムは、コンピュータが読み取り可能な記録媒体（例えばハードディスク、ROM、FD、CD、DVDなど）に記録されていてもよいし、伝送媒体（インターネットやLANなどの通信網）を介してあるコンピュータから別のコンピュータへ配信されてもよいし、その他どのような形で授受されてもよい。このプログラムをサーバコンピュータに実行させれば、サーバコンピュータは上述の中古品見積方法の各ステップを実行するため、上述の中古品見積方法と同様の作用効果が得られる。なお、本発明におけるサーバコンピュータは、1台で各ステップのすべてを実行してもよいし、複数台で各ステップを分担して実行してもよい。

【0 0 1 9】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本実施形態の中

古品見積システム 1 0 の概略構成を表す説明図、図 2 はデータベースサーバのデータ記憶装置に記憶された各種データベースの説明図である。

【 0 0 2 0 】

本実施形態の中古品見積システム 1 0 は、ウェブサーバ 1 2 と、データベースサーバ 1 4 とで構成され、それぞれネットワークケーブル 1 8 によって通信可能に接続されている。

【 0 0 2 1 】

ウェブサーバ 1 2 は、ユーザが所有するパーソナルコンピュータの中古品を引き取る際の見積価格を提示する中古品見積サイトを開設するサーバである。このウェブサーバ 1 2 は、インターネット 2 0 を介して接続されたユーザコンピュータ 4 0 の要求窓口となるサーバであり、ユーザコンピュータ 4 0 から受信した要求内容に応じて自ら応答内容を作成してユーザコンピュータ 4 0 へ送信したり、ユーザコンピュータ 4 0 から受信した見積必要情報をデータベースサーバ 1 4 に渡してデータベースサーバ 1 4 に買取見積価格を演算させその演算結果を受け取りその演算結果から応答内容を作成してユーザコンピュータ 4 0 へ送信したりする機能などを有している。なお、見積必要情報とは、パーソナルコンピュータの中古品を構成する構成部品の種類や性能などに関する情報であるが、詳しくは後述する。

【 0 0 2 2 】

データ記憶装置 1 6 は、データベースサーバ 1 4 に接続され、図 2 に示すように、パーソナルコンピュータの構成部品の部品名と種類と価格とをそれぞれ対応付けた部品価格テーブルを記憶している。パーソナルコンピュータの構成部品につき、部品名としては CPU、メモリ、HDD、FDD、CD-ROM、LAN カード、オペレーティングシステム（OS）などがあり、このうち、CPU はプロセッサ名とクロック周波数によって種類が決められその種類ごとに価格が決められており、メモリや HDD は容量によって種類が決められその種類ごとに価格が決められている。なお、図示しないが、CD-ROM は機能（DVD の読み取り可とか書き込み可など）によって種類が決められその種類ごとに価格が決められ、FDD や LAN カードは種類の代わりに有か無に対応して価格が決められて

いる。また、ソフトウェアである OS の種類（Windows 9 5 , 9 8 , Me , X P など）に対応して価格が決められている。

【 0 0 2 3 】

データベースサーバ 1 4 は、データ記憶装置 1 6 に接続され、ユーザコンピュータ 4 0 からウェブサーバ 1 2 を経由して受信したパーソナルコンピュータの見積必要情報に基づいてデータ記憶装置 1 6 を検索し、各構成部品の中古価格の総額を買取見積価格の最高値 P A m a x として演算し、ウェブサーバ 1 2 へ渡す機能などを有している。

【 0 0 2 4 】

ユーザコンピュータ 4 0 は、個人又は法人が使用する周知の汎用パーソナルコンピュータであり、インストールされたウェブブラウザによりインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 が開設する中古品見積サイトにアクセス可能である。また、ユーザコンピュータ 4 0 は、種々の画面情報をディスプレイ 4 2 に表示する。

【 0 0 2 5 】

次に、本実施形態の中古品見積システム 1 0 の動作について説明する。図 3 は、ウェブサーバ 1 2 とデータベースサーバ 1 4 とユーザコンピュータ 4 0 の通信の様子を時系列的に表した説明図である。

【 0 0 2 6 】

まず、ユーザがユーザコンピュータ 4 0 のウェブブラウザを立ち上げてウェブサーバ 1 2 が開設する中古品見積サイトの URL（ユニフォーム・リソース・ロケータ）を入力する。すると、ユーザコンピュータ 4 0 は、中古品見積サイトのトップページの取得要求をインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 へ送信する（ステップ S 1 0 0）。これを受信したウェブサーバ 1 2 は、中古品見積サイトのトップページ画面をインターネット 2 0 を介してユーザコンピュータ 4 0 へ送信し（ステップ S 1 1 0）、これを受信したユーザコンピュータ 4 0 は図示しないトップページ画面をディスプレイ 4 2 に表示する。

【 0 0 2 7 】

次いで、ユーザは、図示しないトップページ画面に設けられている見積要求ボ

タンをクリックする。この見積要求ボタンは、今現在使用しているユーザコンピュータ40を引き取ってもらう際の見積価格を要求するためのボタンである。すると、ユーザコンピュータ40は、見積要求をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS120）。これを受信したウェブサーバ12は、ユーザコンピュータ40側で処理が実行されるウェブプログラムである見積必要情報作成プログラムをユーザコンピュータ40へ送信する（ステップS130）。このプログラムは、J A V A アプレット又はA c t i v e Xとして作成されている。

【0028】

この見積必要情報作成プログラムを受信したユーザコンピュータ40は、図4に基づいてこのプログラムを実行する。ここでは、ユーザコンピュータ40は、OSとしてW i n d o w s 9 8を使用しているものとする。このプログラムが開始されると、ユーザコンピュータ40は、まず、レジストリからこのユーザコンピュータ40に組み込まれているハードウェア構成に関する情報を読み出す（ステップS200）。レジストリには、「HKEY_LOCAL_MACHINE」というレジストリキーがあり、この下の階層にハードウェア構成に関する情報を記憶する領域があるため、ここからこのユーザコンピュータ40自身の構成部品であるCPUのプロセッサ名とクロック周波数や、メモリの容量や、HDDの容量などを読み出す。続いて、レジストリからこのユーザコンピュータ40に組み込まれているソフトウェア構成に関する情報を読み出す（ステップS210）。レジストリには、前出のとおり「HKEY_LOCAL_MACHINE」というレジストリキーがあり、この下の階層にソフトウェア構成に関する情報を記憶する領域があるため、ここから構成部品であるOSの種類などを読み出す。その後、ユーザコンピュータ40は、読み出したハードウェア構成及びソフトウェア構成に関連する情報に基づいて見積必要情報を作成し（ステップS220）、このプログラムを終了する。このように作成された見積必要情報の一例を図5に示す。

【0029】

さて、図3に戻り、ユーザコンピュータ40は、図5に例示される見積必要情報をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS14

0)。これを受信したウェブサーバ12は、データベースサーバ14に対して見積必要情報と共に買取見積価格の要求信号を送信する(ステップS150)。すると、これを受信したデータベースサーバ14は、見積必要情報に基づいてデータ記憶装置16に記憶された部品価格テーブル(図2参照)を参照して買取見積価格の最高値P A m a xを算出する。具体的には、CPUのプロセッサ名とクロック周波数に対応付けられた価格、メモリの容量に対応付けられた価格、HDDの容量に対応付けられた価格などを図2に例示した部品価格テーブルから読み出し、数1式に示すように、これらの部品価格の総額に応じて買取見積価格の最高値P A m a xを算出する。

【0030】

【数1】

$$P A m a x = \Sigma (\text{部品価格})$$

【0031】

このようにして買取見積価格の最高値P A m a xを算出したあと、データベースサーバ14は、その買取見積価格の最高値P A m a xをウェブサーバ12へ送信する(ステップS160)。すると、これを受信したウェブサーバ12は、図6に示す見積画面作成処理ルーチンを実行する。即ち、ウェブサーバ12は、まず、データベースサーバ14から受け取った買取見積価格の最高値P A m a xに基づいて、買取見積価格の最低値P A m i nや下取見積価格の最高値P B m a x・最低値P B m i nを算出する(ステップ310)。各値を求める算出式の一例を数2式に示す。

【0032】

【数2】

$$P A m i n = P A m a x \times k$$

$$P B m a x = P A m a x + \alpha$$

$$P B m i n = P B m a x \times k'$$

(但し、 $k < 1$, $k' < 1$, $\alpha > 0$)

【0033】

続いて、買取見積価格の最高値P A m a xが閾値P1を越えているか否かを判

定する（ステップ S 3 2 0）。この閾値 P 1 は、買取見積価格の最高値 P A m a x がこの閾値 P 1 以下のときに中古品見積システム 2 0 側にとってユーザコンピュータ 4 0 を単独で買い取る価値がないと判断される値に設定されている。そして、P A m a x が P 1 を越えているときには、そのユーザコンピュータ 4 0 は商品の購入を伴わない買取の価値があり、また、新たな商品の購入を伴う下取の価値もあると判断し、買取・下取説明文と、買取見積価格の最低値 P A m i n ・最高値 P A m a x と、下取見積価格の最低値 P B m i n ・最高値 P B m a x と、買取ボタン・下取ボタン・キャンセルボタンを含む見積画面を作成し（ステップ S 3 3 0）、その後このルーチンを終了する。このときの見積画面の一例を図 7 に示す。なお、買取・下取説明文とは、買取見積価格は新たな商品の購入を伴わない場合の見積価格であり下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格であること、正常に動作しない中古品は買取・下取の対象外であること、最終的な買取価格や下取価格は中古品の査定をシステム側が行った上で最低値から最高値までの範囲内で決定されること、中古品の所有権はシステム側に到着した時点でシステム側に移転されること等の説明文をいう（図 7 の「※注意事項」参照）。

【 0 0 3 4 】

一方、ステップ S 3 2 0 で買取見積価格の最高値 P A m a x が閾値 P 1 以下のときには、そのユーザコンピュータ 4 0 は商品の購入を伴わない買取の価値がないが商品の購入を伴う下取の価値はあると判断し、続いて下取見積価格の最高値 P B m a x が閾値 P 2 を越えているか否かを判定する（ステップ S 3 4 0）。この閾値 P 2 は、下取見積価格の最高値 P B m a x がこの閾値 P 2 以下のときに中古品見積システム 2 0 側にとってそのユーザコンピュータ 4 0 の下取見積価格を幅を持たせる必要がないと判断される値に設定されている。そして、P B m a x が P 2 を越えているときには、そのユーザコンピュータ 4 0 は、新たな商品の購入を伴う下取見積価格を幅を持って提示する必要があると判断し、下取説明文と、下取見積価格の最低値 P B m i n ・最高値 P B m a x と、下取ボタン・キャンセルボタンとを含む見積画面を作成し（ステップ S 3 5 0）、その後このルーチンを終了する。このときの見積画面の一例を図 8 に示す。なお、下取説明文とは

、今回の中古品は低価値のため商品の購入を伴わない買取はできず商品の購入を伴う下取のみの対象となること、正常に動作しない中古品は下取の対象外であること、最終的な下取価格は中古品の査定をシステム側が行った上で最低値から最高値までの範囲内で決定されること、中古品の所有権はシステム側に到着した時点でシステム側に移転されること等の説明文をいう（図 8 の「※注意事項」参照）。

【 0 0 3 5 】

一方、ステップ S 3 4 0 で下取見積価格の最高値 P B m a x が閾値 P 2 以下のときには、中古品見積システム 2 0 側にとってそのユーザコンピュータ 4 0 の下取見積価格を幅を持たせる必要がないと判断し、下取見積価格を固定額 P 2 （ステップ S 3 4 0 における閾値）に設定し、下取説明文と、下取見積価格 P 2 と、下取ボタン・キャンセルボタンとを含む見積画面を作成し（ステップ S 3 6 0 ）、その後このルーチンを終了する。このときの見積画面の一例を図 9 に示す。なお、このときの下取説明文とは、今回の中古品は低価値のため商品の購入を伴わない買取はできず商品の購入を伴う下取のみの対象となること、正常に動作しない中古品は下取の対象外であること、中古品の所有権はシステム側に到着した時点でシステム側に移転されること等の説明文をいう（図 9 の「※注意事項」参照）。この場合、中古品の査定を行うことなく一定の下取見積価格 P 2 で中古品の下取を行うことになる。以上の見積画面作成処理ルーチンが終了したあと、図 3 に戻り、ウェブサーバ 1 2 は作成した見積画面をユーザコンピュータ 4 0 へ送信する（ステップ S 1 7 0 ）。これを受信したユーザコンピュータ 4 0 はディスプレイ 4 2 にその見積画面を表示する。

【 0 0 3 6 】

ここで、図 7 に示す見積画面がユーザコンピュータ 4 0 のディスプレイ 4 2 に表示されたとすると、ユーザは、見積画面の買取見積価格と下取見積価格とを比較し、特に両価格の最低値同士や最高値同士を比較し、買取を希望する場合には「買取希望」ボタンをクリックし、下取を希望する場合には「下取希望」ボタンをクリックし、いずれも希望しない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 4 0 は、「買取希望」ボタンがクリックされた

ときには買取要求を、「下取希望」ボタンがクリックされたときには下取要求を、「キャンセル」ボタンがクリックされたときにはキャンセル要求をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S 180）。すると、これを受信したウェブサーバ 12 は、受信した信号が買取要求だったときにはユーザコンピュータ 40 の買取に必要な情報を入力するための図示しない買取必要情報入力画面をユーザコンピュータ 40 へ送信し、受信した信号が下取希望だったときには新たに商品を購入することのできる図示しない商品購入サイトへユーザコンピュータ 40 を接続し、受信した信号がキャンセル要求だったときには図示しないトップページ画面をユーザコンピュータ 40 へ送信する（ステップ S 190）。

【0037】

また、図 7 や図 8 に示す見積画面であったとすると、ユーザは、注意事項を読むことにより今使用しているユーザコンピュータ 40 は低価値のため買取の対象とならず下取の対象にしかならなかったことを認識した上で、下取を希望する場合には「下取希望」ボタンをクリックし、下取を希望しない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 40 は、「下取希望」ボタンがクリックされたときには下取要求を、「キャンセル」ボタンがクリックされたときにはキャンセル要求をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S 180）。すると、これを受信したウェブサーバ 12 は、受信した信号が下取希望だったときには新たに商品を購入することのできる商品購入サイトへユーザコンピュータ 40 を接続し、受信した信号がキャンセル要求だったときにはトップページ画面をユーザコンピュータ 40 へ送信する（ステップ S 190）。

【0038】

ここで、本実施形態の構成要素と本発明の構成要素との対応関係を明らかにする。本実施形態のウェブサーバ 12 及びデータベースサーバ 14 が本発明の見積価格決定手段に相当し、ウェブサーバ 12 が見積必要情報取得手段及び見積情報送信手段に相当し、データベースサーバ 14 が部品価格記憶手段に相当する。

【0039】

以上詳述した本実施形態の中古品見積システム 1 0 では、ユーザコンピュータ 4 0 からそのユーザコンピュータ 4 0 自身の見積価格の要求があったとき、そのユーザコンピュータ 4 0 の見積必要情報をそのユーザコンピュータに自動的に読み出させたあとそのユーザコンピュータ 4 0 から取得し、次いで、取得した見積必要情報に基づいてそのユーザコンピュータ 4 0 の見積価格を決定し、その見積価格を含む見積画面をそのユーザコンピュータ 4 0 へ送信する。つまり、中古品見積システム 1 0 は、ユーザコンピュータ 4 0 に自動的に読み出させた見積必要情報に基づいて見積価格を決定する。したがって、ユーザは見積必要情報に関する知識つまりコンピュータ知識を有していなくても簡単に見積価格を知ることができる。

【 0 0 4 0 】

また、見積必要情報としてユーザコンピュータ 4 0 の構成部品に関する情報を取得してそれに基づいて見積価格を決定するため、コンピュータ全体では引取価値のない場合であっても構成部品に引取価値があればそれなりの見積価格となり、ユーザにとってメリットがある。特に、ユーザコンピュータ 4 0 の見積価格は各構成部品の部品価格の総額に応じて決定されるため、適切な見積価格が得られる。

【 0 0 4 1 】

更に、ユーザコンピュータ 4 0 はシステム 1 0 側から送信されてきた見積必要情報作成プログラムを実行すれば見積必要情報を作成することができるため、ユーザがユーザコンピュータ 4 0 を操作する負担は軽くて済む。このとき、ユーザコンピュータ 4 0 は、自身の構成部品に関する情報を記録したレジストリを利用して見積必要情報を作成するため、容易に自分自身の構成部品に関する情報を読み出すことができる。

【 0 0 4 2 】

更にまた、ユーザコンピュータ 4 0 の見積価格として下取見積価格と買取下取価格とが提示されるため、ユーザは下取見積価格と買取見積価格とを比較することができ、自分のコンピュータを引き取ってもらうときに下取に出すべきか買取に出すべきかの指標とすることができる。

【0043】

なお、本発明は上述した実施形態に何等限定されるものではなく、種々の形態で実施し得ることはいうまでもない。

【0044】

例えば、上述した実施形態では、ユーザコンピュータ40は自身の構成部品に関する情報を記録したレジストリを利用して見積必要情報を作成したが、自身の構成部品に関する情報を記録したBIOSを利用して見積必要情報を作成してもよいし、あるいは、各ハードウェア構成から直接部品情報を読み取って見積必要情報を作成してもよい。

【0045】

また、上述した実施形態では、ユーザコンピュータ40の各構成部品の価格を部品価格テーブルから読み出しその部品価格の総額に応じて買取見積価格の最高値 P_{Amax} を決定したが、部品価格の総額に応じて買取見積価格の最低値 P_{Amin} を決定し、この最低値 P_{Amin} に基づいて P_{Amax} 、 P_{Bmax} 、 P_{Bmin} を求めてもよいし、あるいは、部品価格の総額に応じて下取見積価格の最高値 P_{Bmax} を決定し、この最高値 P_{Bmax} に基づいて P_{Amax} 、 P_{Amin} 、 P_{Bmin} を求めてもよいし、あるいは、部品価格の総額に応じて下取見積価格の最低値 P_{Bmin} を決定し、この最低値 P_{Bmin} に基づいて P_{Amax} 、 P_{Amin} 、 P_{Bmax} を求めてもよい。なお、各値を求める場合には、下取見積価格の最低値 P_{Bmin} から最高値 P_{Bmax} までの価格帯が買取見積価格の最低値 P_{Amin} から最高値 P_{Amax} までの価格帯よりも高額になるように、部品価格の総額にオフセット価格(>0)を足したり引いたりしてもよいし、部品価格の総額に1より大きい係数を乗じたり1より小さい係数を乗じたりしてもよいし、その他にどのような算出式を用いてもよい。

【0046】

更に、上述した実施形態では、買取見積価格の最低値 P_{Amin} と最高値 P_{Amax} 、下取見積価格の最低値 P_{Bmin} と最高値 P_{Bmax} を求めたが、買取見積価格や下取見積価格を幅を持たせずに固定値として求めてもよい。

【0047】

更にまた、上述した実施形態では、買取見積価格の最高値 P A m a x を部品価格テーブルから求めたあとの P A m a x に基づいて下取見積価格の最高値 P B m a x を算出したが、各部品ごとにより買取時の価格の最高値と下取時の価格の最高値をテーブル化しておき、下取見積価格の最高値 P B m a x も部品価格テーブルから求めてもよいし、更に各部品ごとにより買取時の価格の最低値と下取時の価格の最低値をテーブル化しておき買取見積価格の最低値 P A m i n や下取見積価格の最低値 P B m i n についても部品価格テーブルから求めてもよい。

【 0 0 4 8 】

そしてまた、上述した実施形態では、中古品見積システム 1 0 をウェブサーバ 1 2 とデータベースサーバ 1 4 の 2 つのサーバで構成したが、データベースサーバ 1 4 の機能をウェブサーバ 1 2 に持たせることにより 1 つのサーバで構成してもよいし、あるいは、3 つ以上のサーバで構成してもよい。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本実施形態の中古品見積システムの概略構成を表す説明図である。

【図 2】 データ記憶装置に記憶された部品価格テーブルである。

【図 3】 通信の様子を時系列的に表した説明図である。

【図 4】 見積必要情報取得プログラムのフローチャートである。

【図 5】 見積必要情報入力画面の説明図である。

【図 6】 見積画面作成処理ルーチンのフローチャートである。

【図 7】 見積画面の説明図である。

【図 8】 見積画面の説明図である。

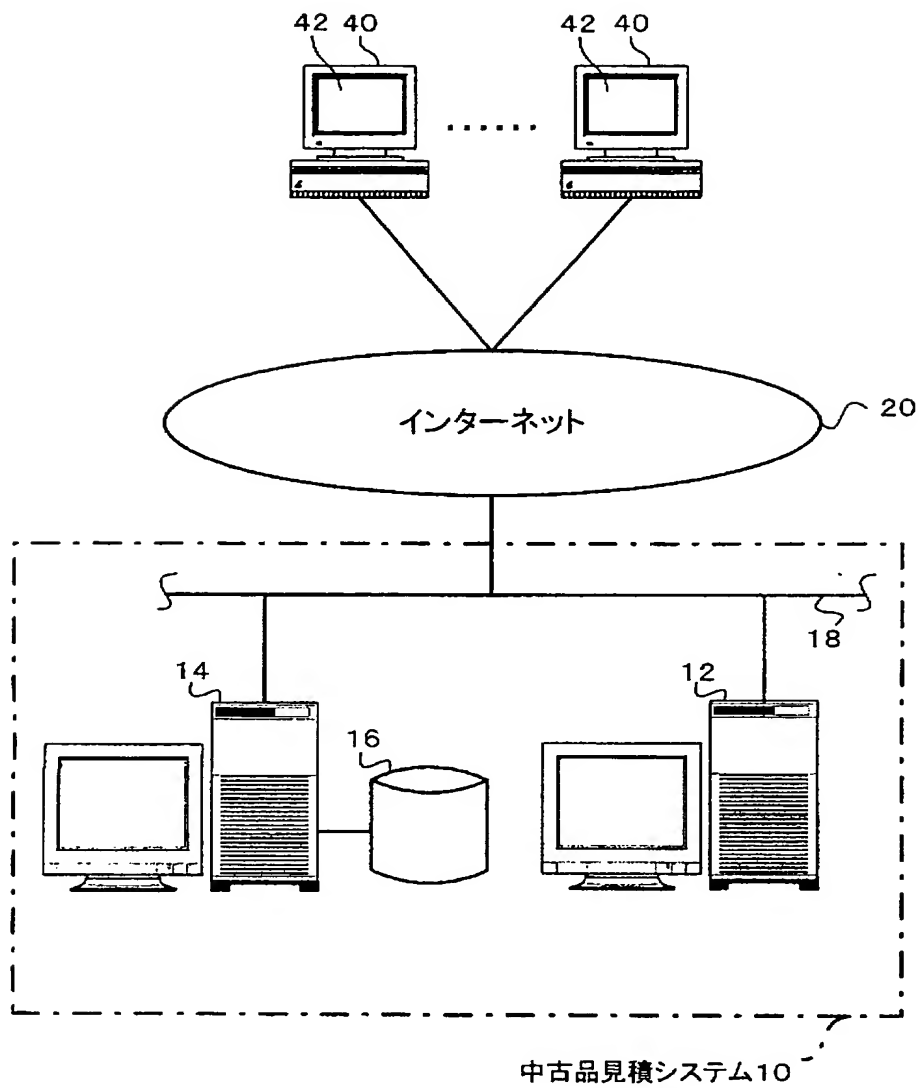
【図 9】 見積画面の説明図である。

【符号の説明】

1 0 中古品見積システム、1 2 ウェブサーバ、1 4 データベースサーバ、
1 6 データ記憶装置、1 8 ネットワークケーブル、2 0 インターネット、
4 0 ユーザコンピュータ、4 2 ディスプレイ。

【書類名】 図面

【図 1】

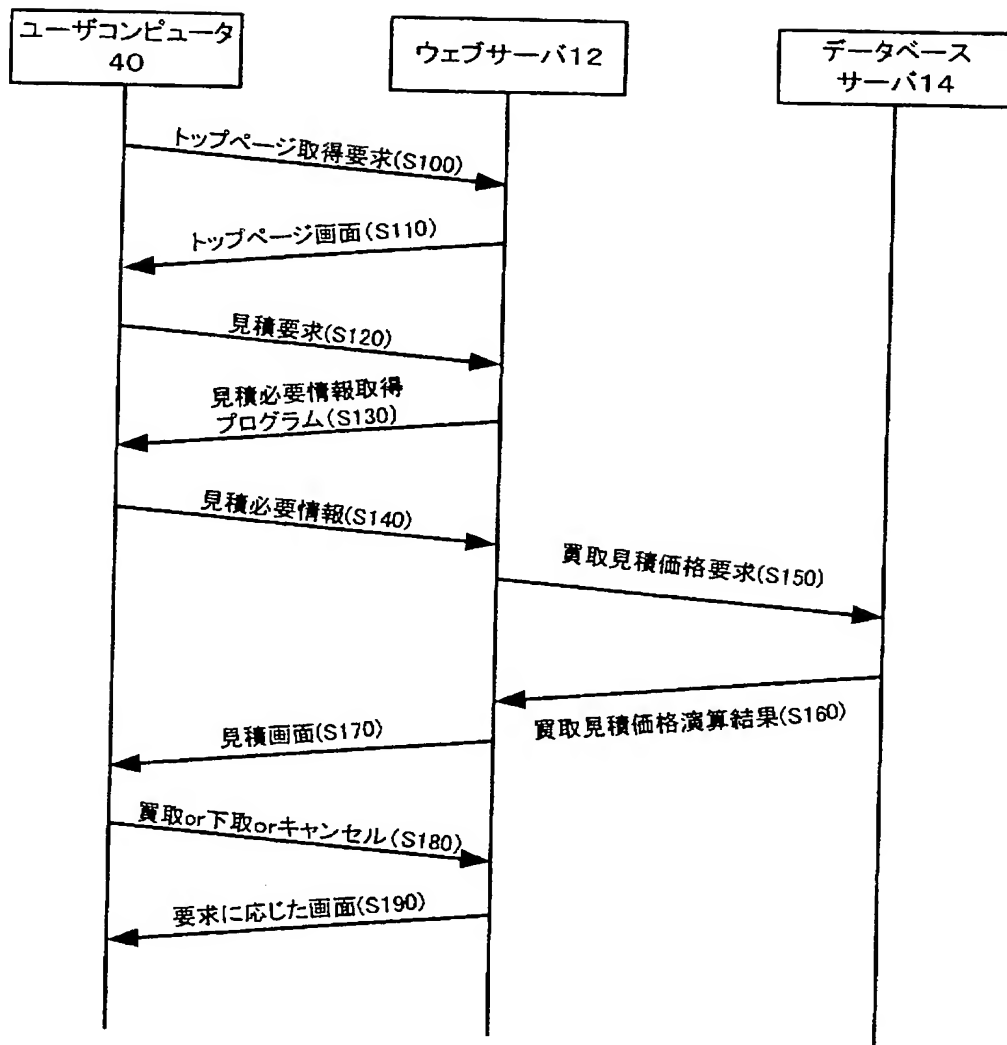


【図 2】

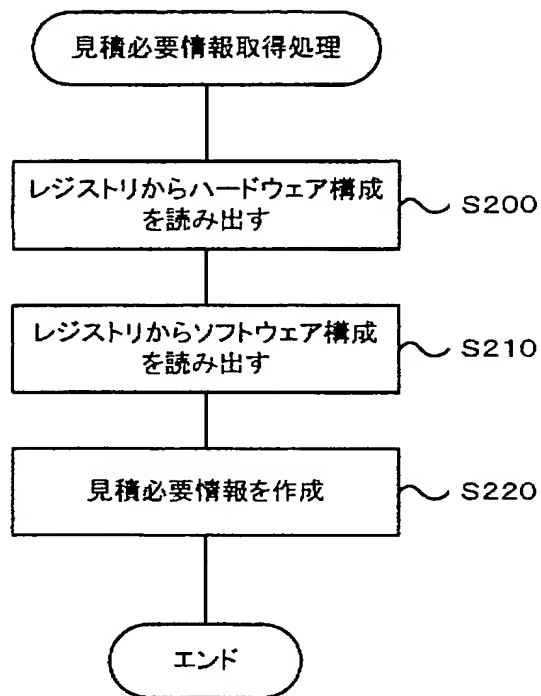
部品	種類	価格
CPU	Pentium166MHz以下	¥〇〇〇〇
	Pentium2 300MHz以下	¥〇〇△△
	Pentium2 450MHz以下	¥△△△△
	・ ・ ・	・ ・ ・
メモリ	なし	¥ 0
	64MB以下	¥□□□
	128MB以下	¥□□△
	・ ・ ・	・ ・ ・
HDD	なし	¥ 0
	10GB以下	¥×××
	40GB以下	¥××△
	・ ・ ・	・ ・ ・

※)Pentiumはインテル社の登録商標

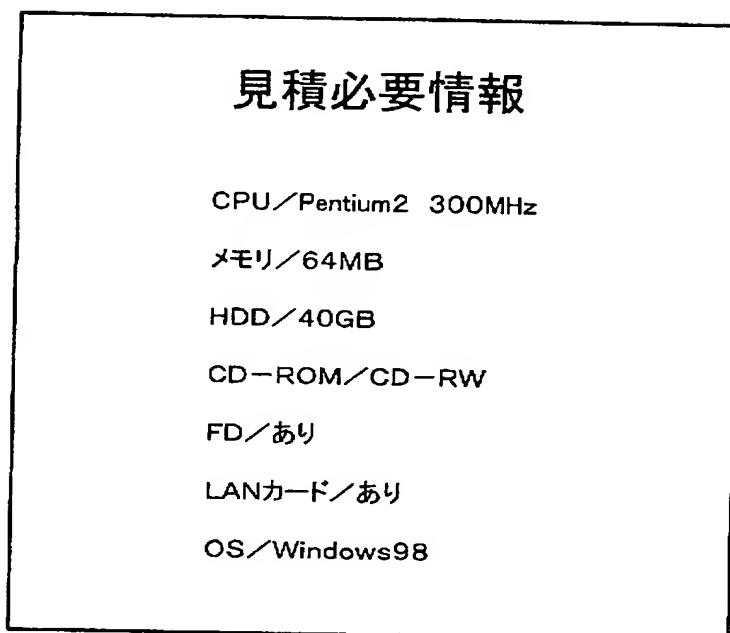
【図 3】



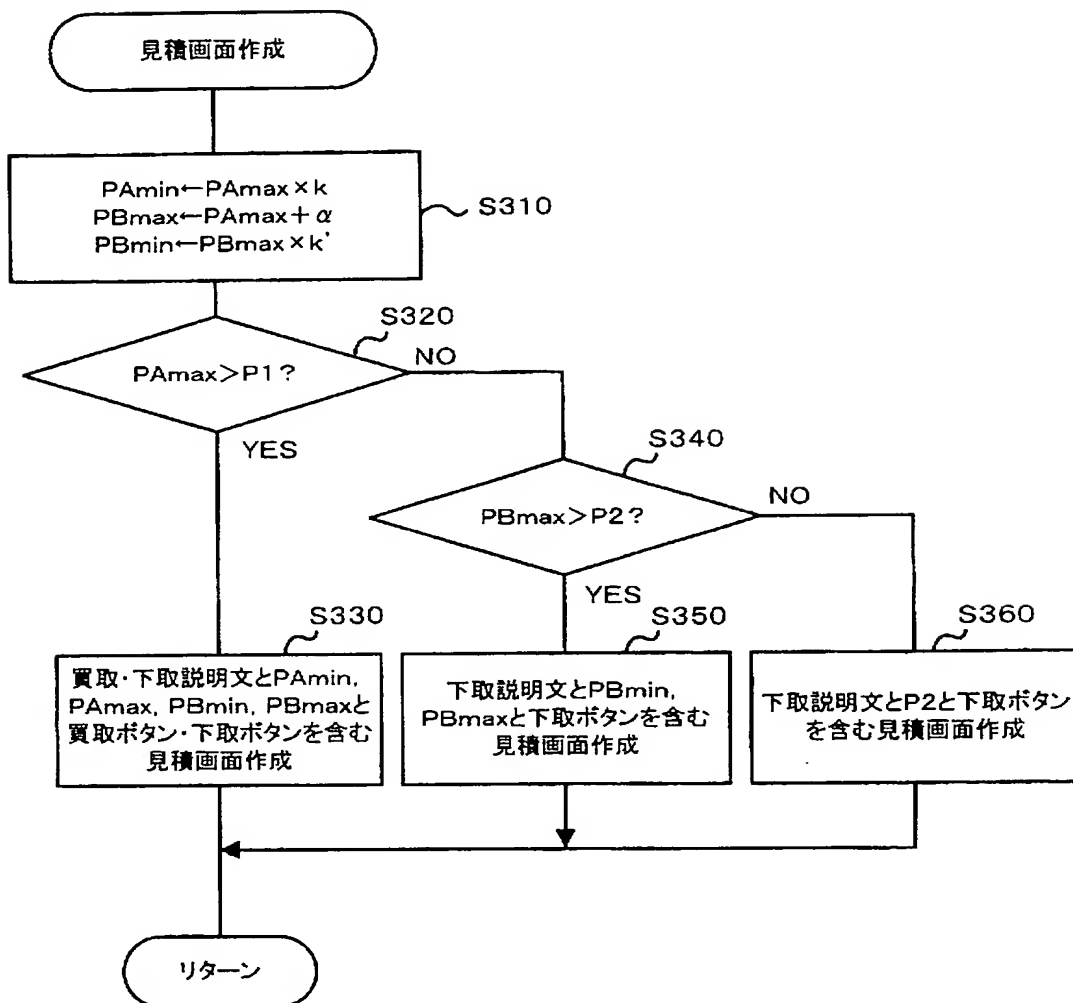
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

見積画面

今あなたが使用しているパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

買取見積価格

最低値 ¥25,000～最高値 ¥35,000

下取見積価格

最低値 ¥30,000～最高値 ¥40,000

※注意事項

- ・ 買取見積価格は新たな商品の購入を伴わない場合の見積価格、下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ・ 正常に動作しない中古品は買取・下取の対象外になります。
- ・ 最終的な買取価格や下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低見積価格から最高見積価格までの範囲内で決定されます。
- ・ 中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

買取希望

下取希望

キャンセル

【図 8】

見積画面

今あなたが使用しているパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 最低値 ¥5,000～最高値 ¥10,000

※注意事項

- ・今回の中古品は低価値のため新たな商品の購入を伴わない買取の対象にはなりませんが、新たな商品の購入を伴う下取の対象にはなります。
- ・正常に動作しない中古品は下取の対象外になります。
- ・最終的な下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低見積価格から最高見積価格までの範囲内で決定されます。
- ・中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

【図 9】

見積画面

今あなたが使用しているパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 ¥5,000

※注意事項

- ・今回の中古品は低価値のため新たな商品の購入を伴わない買取の対象にはなりません、新たな商品の購入を伴う下取の対象にはなります。
- ・正常に動作しない中古品は下取の対象外になります。
- ・中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コンピュータ知識を有さないユーザであっても簡単に中古品の見積価格を知ることができる。

【解決手段】 ウェブサーバ 1 2 は、ユーザコンピュータ 4 0 からそのユーザコンピュータ 4 0 自身の見積価格の要求があったとき（S 1 2 0）、そのユーザコンピュータ 4 0 に見積必要情報取得プログラムを送信し（S 1 3 0）、そのユーザコンピュータ 4 0 の見積必要情報をそのユーザコンピュータ 4 0 自身に自動的に読み出させたあとそのユーザコンピュータ 4 0 から取得し（S 1 4 0）、次いで、取得した見積必要情報に基づいてそのユーザコンピュータ 4 0 の見積価格を決定し（S 1 5 0, S 1 6 0）、その見積価格を含む見積画面をそのユーザコンピュータ 4 0 へ送信する（S 1 7 0）。

【選択図】 図 3

特願 2 0 0 2 - 3 1 2 4 7 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号

氏 名

セイコーエプソン株式会社